

様式1 平成 29年度 山梨県立甲府城西高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自己の課題に積極的に取り組み、創造する力と豊かな個性を身につけ、社会に貢献する生徒を育成する。
-----------	---

山梨県立甲府城西高等学校校長 田之口 晃士

本年度の重点目標	1 積極的に学ぶ生徒を育てる。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 規範意識の向上を図り、社会性を育む。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む。		C 不十分である。(4割以上)
	4 社会の問題を意識し、積極的に関わる態度を育てる。		D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(2月16日現在)			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	積極的に学ぶ生徒を育成する	①自ら学び、考える力を育成するため、学習指導の工夫・改善に努める。	理解度に応じた指導の充実、相互授業参観の活性化	・理解度に応じた指導の充実 →評価A40%、評価B51% ・指導の工夫・改善 →評価A27%、評価B55%	B	校内委員会を中心に組織的に取り組み、授業改善を図る気運が高まった。相互授業参観の一層の活性化と、授業アンケートの活用を図る。
		②基礎的・基本的な学力を身につけさせ、進路実現に結びつける。	実力診断テストの活用、課外の充実、ICTを活用した学習習慣の確立	・「課外や小論文・面接等の個別指導の充実」 →評価A46%、評価B45%		夏季課外の実施、1年生全員対象にClassiを導入し学習習慣の確立を目指した。ICTの活用方法を検討し一層の充実を図っていく。
		③授業をととして4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。	4つの力の向上	・「授業を通した4つの力の育成」 →評価A28%、評価B54%		各科目で、4つの力の向上を目指し取り組んだ。今後も4つの力の育成状況を把握し、授業改善に取り組んで行く。
		④体験的な学習の重視と資格取得を奨励することで、専門的な知識・技能の修得を目指す。	産社・総学等における体験的学習の充実	・「体験的学習の充実」 →評価A37%、評価B48%		資格取得については、高度資格取得者が現れるなどその成果が出ている。体験的学習の内容を精査して、より内容の充実を図る。
2	規範意識の向上を図り、社会性を育む	①基本的な生活習慣を確立させる。	遅刻指導、あいさつ運動の充実	・「あいさつ習慣の確立」 →評価A57%、評価B36% ・「時間を守る指導の充実」 →評価A50%、評価B42%	A	部活動の生徒を中心に、挨拶をする習慣が身につけている。また、遅刻者数も減っている。今後も継続した指導を行う。
		②集団生活のルールやマナーを身につけさせる。	服装頭髪指導の徹底	・「集団生活のルールやマナーの指導」 →評価A47%、評価B45%		頭髪服装検査の再検査を受ける生徒も少なく、全体的に規則を守っている。検査方法を見直し、守れていない生徒への重点的な指導を行う。
3	心身を鍛え、豊かな人間性を育む	①自己を正しく理解し、在り方・生き方について考えさせる取り組みを実践する。	自己理解、生き方・在り方を考える機会の充実	・「産社や総学の講話による効果」 →評価A35%、評価B49%	B	講話を通して自己理解や生き方・在り方を考えさせ、進路選択に役立てることができ、評価Aが増えた。より内容の充実を図る。
		②健康と安全に対する意識を深める取り組みを実践する。	保健講話、生指講話、防災訓練の充実	・「健康や命を守る講話の充実」 →評価A32%、評価B50% ・「災害時の行動等の指導の充実」 →評価A40%、評価B49%		昨年度と比較して評価Aの数とABの合計が増えた。防災訓練については、より実際のものとなるべく工夫・改善を図る。
		③部活動を活発にして、豊かな人間性を育む。	部活動における技術技能の向上、人間性の育成	・「部活動の充実」 →評価A62%、評価B33%		部活動は本校教育活動の柱となっており、活性化や愛校心の育成に大きく寄与している。今後も活動の充実を図り、豊かな人間性を育む。
4	社会の問題を意識し、積極的に関わる態度を育てる	①キャリア教育の充実を図り、個々の進路にむけての意識づけを行う。	進路意識を高める取組の充実	・「進路意識を高めるための総学やLHRの充実」 →評価A34%、評価B51%	B	系列選択指導や系列学習を通して、進路の目的を持たせ、進路を実現させた。今後もキャリア教育の充実を図り、生徒の進路意識を高める。
		②我が国の文化や伝統に触れ、大切にすることを向上させる機会を設定する。	産社・総学等における計画立案	・「産社・総学における日本の文化や伝統に触れる機会の設定」 →評価A33%、評価B52%		文学部・美術館見学や修学旅行で実際に触れる学びを行った。学んだことの活用や発展学習等を行い、一層理解を深めさせる。
		③地域社会及び世界の諸問題に目を向けさせる取り組みを実践する。	地域の諸行事への参加	・「地域交流への取組」 →評価A32%、評価B49%		地域の雪かきや清掃活動、他校との交流を通して、社会への貢献の大切さや社会の一員としての役割を自覚した。今後も継続して取り組んでいく。

学校関係者評価	
実施日(平成30年3月9日)	
評価	意見・要望等
3	○受験があるからと、意識的・意欲的に学習することが強く出ているのが3年次からだけでなく、早い段階で自己の進路に向けて、必要なリキキュムを選択できる本校の特色が、自ら学ぶとする生徒の促進に繋がっていると感じました。基礎学力の強化によって、理解度も上がり、精神的に余裕も出てきて、詰め込み過ぎるといったところからと言うと「良い勉強に対する思いも減少してきている」と感じます。今後もカテゴリー別で資格取得によって志望した進路に進んだ先や卒業生をモデルとして挙げれば、資格取得における達成感と、その資格を活かせる進路選定が、生徒達の意識向上に繋がっていると思います。
	○若者の投稿記事等々、知識を自己の心に成長としてたわえて、その気持ちを現実の社会に発信する姿は美しいものであります。
	○項目、方策、指標いずれもが積極的な学びによって重要な事柄である。方策「学習指導の工夫・改善」は完成がなく、つねに図られるべきものであり、経年的に把握していくことがとくに求められる。方策③の「4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)」力は、相互に関連しているものの別々の力ではあり、力ごとに個別に指標化して評価したほうがよいのではないかと。たとえば、情報は収集したがうまく伝えられない、といった事象も想定される。
	○全体的な評価は上昇傾向にあります。①の割合が減少した(1)[1]と(4)の方策については、次年度以降、改善に努めていただければと思います。
4	○3年生前期の生徒が、「自分の時代とは違い格別」増加しており、学校と家庭での連携づくりが、良い生活習慣の確立に繋がっていると感じました。また、自己アピールとつながり(子供が4時以降です)で、本校の際、挨拶をしてくれるのが、野球部の生徒などの運動部から生徒がほとんどのように感じます。せっかくPTAの皆様に連携して挨拶運動を行っているのですから、朝の挨拶だけでなく、普段から挨拶できる心を育てていただければと思います。
	○学校を訪れる時、生徒の皆さんのあいさつは、心をなごやかな気持ちにさせていたと思います。○方策③の質問「1」に対する「達成できた」との回答の割合は6割弱(58.8%)であり、同「2」については5割(50.9%)である。取り組みの工夫・改善の余地が認められる。方策②の質問(1)に対しては、「達成できた」が47.4%でもっとも多し、また、「ほぼ達成できた」が44.7%であり、「達成できた」「ほぼ達成できた」を合わせた9割以上になる。例年そのような傾向があり、今後は肯定回答率を上げるよりも、否定回答率を下げる取り組みが必要ではないかと。その意味で、5件法よりも現行の4件法が適していると思われる。
3	○挨拶を通して生徒とそうでない生徒がはつきりしている。積極的な人は素晴らしい事ですが、○挨拶については、学校に行くと、習慣化されていることが実感できます。あとは「先生が挨拶を返してくれないと生徒から意見が出ないように、気を付けていただければと思います。
	○先日お話しさせていただきましたが、交通手段に関する取り組みは次の月の事故・違反数の増加は残念でした。自分だけが注意していても相手がないことなので絶対は無理と思いますが、普段の通学路にこんな事故が潜んでいるという意識づけを、スポーツではなく短時間で考えさせる取り組みができればいいと感じます。
	○主催者として有り難く自ら求めている姿が感じられる。一方スポーツを通しての全体の成長をみてとれるものではないでしょうか。
4	○方策①の「自己を正しく理解」することは難しい。生徒が自己のあり方や生き方について考察するための時間や契機を設ける工夫は今後の必要と思われる。方策③の「部活動」は、校外活動のため方策として位置づけることやや遅延感を抱いた。だが、同時に活発な部活動は貴校の特色であることも理解している。生徒向けの質問も「部活動が活発に行われている」とあり、自分が部活動しているかどうかは切り分けて考えさせることもできた。回答に即して思う生徒が少ないと懸念する。項目と方策③にある「豊かな人間性」は定義も把握もつらいところがある。代わりに、教員向けの質問37にある「達成感」や、あるいは「自己肯定感」といったものを掲げ、それを育んだ振り返りをする方法もあるように思われた。
	○体育部の生徒さんは、他校に比べて規律正しい。
	○①については、成果として見えにくい部分ですが、不登校や転出・退学の生徒を無くするという意味でも重要かと思しますので、引き続き、注力していただきたい項目です。
4	○1でも申しましたが、基礎学力の向上がゆとりのある学校生活に繋がると、自己分析能力も上がり、進路決定も幅広く、より良い進路を選択することができるのだと思います。その意味ではどの評価項目は達成している、達成効率が上がるかは考えませんが、その中で達成率や進歩や変化は達成率をめぐり、生徒達に、自分に何ができるだろうかと考えさせる。精神的な成長が望める目標だと思いますので、これからも積極的に取り組んでいただきたいと思っております。
	○日本作りに大切だと考えます。我が国で良でもなく、世界的視点に立つ思考、これからの世間の生から求め、重い部分だと思えます。一人一人が(生徒)立つ位置が許されます。
	○①②③いずれも「達成できた」「ほぼ達成できた」という肯定回答率が高い。とはい、「あまり達成できなかった」と「達成効率が上がる」とは必ずしも一致しないと思います。その中で達成率や進歩や変化は達成率をめぐり、生徒達に、自分に何ができるだろうかと考えさせる。精神的な成長が望める目標だと思いますので、これからも積極的に取り組んでいただきたいと思っております。
4	○地域の高学校、支援学校との交流によりその事が社会人になってから役立つと思います。
	○総合学科の高校の特色になりますので、達成度Aになるように引き続き取り組んでいただきたいです。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。